

2014年3月22日

今治市立図書館講座（10:30-12:00）

於今治市立中央図書館3階視聴覚室

城西大学経営学部 辻智佐子

「タオルびと」第一章 ～明治期における地域産業の発展とキリスト教徒～

目次

はじめに～「タオルびと」の紹介と講座の趣旨～

1. 今治の綿織物業とキリスト教
2. アメリカ・プロテスタントの活動と日本基督伝道会社（日本組合教会）
3. 伊勢（横井）時雄と新島襄

おわりに～地域産業の発展とキリスト教徒～

概要

「タオルびと」第一章では、明治期にタイムスリップし、今治の地域産業である綿織物業（小幅白木綿、綿ネル、広幅木綿、タオル）の発展とキリスト教の関係についてとり上げる。幕末から明治前期にかけて、今治の綿織物業は、開港による貿易の開始と新たな時代の幕開けによって大きな転換期を迎えた。このとき、今治に早くから伝わったキリスト教に影響を受けた人びとが、産業の再編において重要な役割を担った。

このたびの「タオルびと」第一章では、キリスト教徒と地域産業に着目し、とりわけ2名の人物を導きの糸として、以下の問題を明らかにしたいとおもう。

- ① なぜ今治に最初に伝わったキリスト教がプロテスタントだったのか？
- ② なぜ伊勢（横井）時雄が今治教会の初代牧師となったのか？
- ③ なぜ地域産業の発展とキリスト教が関係しているのか？

そして、2名の人物とは、今治に縁のある、**伊勢時雄**と**新島襄**である。



はじめに～「タオルびと」の紹介と講座の趣旨～

(1) 簡単な自己紹介

- ・ 「今治タオル」への道のり
- ・ 科研（日本学術振興会による科学研究費）での研究
- ・ 地域産業研究と日本の将来

(2) 「タオルびと」の紹介

- ・ 「タオルびと」とは、タオルづくりに携わる人びとのことを尊敬の意をこめてつくった造語である。
- ・ 江戸時代からつづく今治の綿織物業は、各時代の人びとの創意工夫によって発展・継承されてきた。戦後、今治は日本一のタオル産地として成長を遂げたが、どのような人びとによってそれが担われてきたのかを知る資料が、意外なことに少ない。
- ・ 戦後から現在における「タオルびと」を一人ずつとり上げ、幼少時代のエピソードから現役時代の苦労話、思想・哲学などについてインタビューし、その内容を毎月16日に今治市立図書館のホームページからを配信する。

↓「タオルびと」では、

人と歴史に注目

(3) 講座の趣旨

- ・ 2012年11月16日に今治市立図書館HPから「タオルびと」が創刊され、これを記念して第一回目の講座を昨年3月に実施。「タオルびと」をなるべく多くのみなさんに知っていただくための講座として毎年3月に講座を開催することになった。
- ・ 前回の講座では、「タオルびと」（序章）として、戦後日本の歴史的変遷を鳥瞰しながら、今治タオル業界の歩んできた道を、戦後から現在まで振り返った。
- ・ 今回の講座は、明治初期の今治でタオル製造が開始された時代に遡り、ここでも「人」に焦点を当て、当該期に地域産業の発展に係わったキリスト教徒の人たちをクローズアップ。



キリスト教徒をクローズアップする理由

- ★ 今年度は「キリスト教年度」→NHK大河ドラマ「八重の桜」、今治市立図書館の歴史講座における越智真次先生のお話など
- ★ 今治のタオル製造の歴史を辿ると、とくにその初期においてキリスト教（キリスト教徒）とは深い関係がある

1. 今治の綿織物業とキリスト教

(1) 幕末から明治初期における今治綿織物業の再編

- 1858年の日米修好通商条約の締結（のちイギリス、フランス、オランダ、ロシアとも締結）による開港と江戸時代の封建社会から明治時代の資本主義社会への転換によって、在来の地域産業は再編を余儀なくされる。
- 今治綿織物業の再編において、キリスト教徒企業家たちが大きな役割を担った。

⇒ 図表 1-1

(2) 今治教会の設立

- 今治教会設立の経緯 ⇒ 図表 1-2
- 明治期における今治教会の教会員数・受洗者数 ⇒ 図表 1-3

2. アメリカ・プロテスタントの活動と日本基督伝道会社（日本組合教会）

(1) アメリカ・プロテスタントの活動

- 1858年の日米修好通商条約締結後、「切支丹禁制」（1620年代～1873年）下においてアメリカからプロテスタント各教派の宣教師が来日（神奈川・長崎・箱館）。

⇒ 図表 2-1

- 1859年来日の宣教師は6名
 - リギンズ、ウィリアムズ（アメリカ監督派）
 - ヘボン（アメリカ長老派）
 - ブラウン、シモンズ、フルベッキ（アメリカオランダ改革派）
- その後、以下の宣教師が来日
 - 1860年にゴープル（アメリカ自由バプテスト派）
 - 1861年にバラ（アメリカオランダ改革派）
 - 1863年にトムソン（アメリカ長老派）
 - 1869年にグリーン（アメリカ会衆・組合派 [アメリカン・ボード]）
- 今治教会と縁のあるアメリカ会衆・組合派の宣教師については、グリーンに引きつづき、以下の宣教師が来日
 - 1871年にキューリック、デイビス
 - 1872年にベリー、ゴードン
 - 1873年にアトキンソン、タルカット、ダッドレー、グールドィー、レヴィット
- アメリカ会衆・組合派のアメリカン・ボードの活動 ⇒ 図表 2-2
 - アトキンソンは1876年から今治伝道を開始
- バラ塾を母体として、日本初のプロテスタント教会である日本基督公会が1872年に設立され、2つの意味においてその後設立された教会に影響を与えた。

① 無教派主義

② 日本独立の教会

→ 改革派、長老派、会衆・組合派は教義が類似していたこともあり合同路線を歩む

(2) 日本基督伝道会社による地域伝道と日本組合教会の設立

- 1878年に会衆・組合派9公会が合同して日本基督伝道会社を設立し、アメリカン・ボードから独立、これ以降日本基督伝道会社による地域伝道が活発化 ⇒ 図表 2-3
- 今治伝道については、1876年のアトキンソンによる伝道にはじまり、1877年には二階堂円造と小崎弘道を随伴し再び伝道。1878年には赤峰瀬一郎が今治へ派遣され二カ月滞在。
- 1886年に日本基督伝道会社は、自治、独立、自給を主張し日本組合教会を設立し、1892年に教会規約などを公布、会衆・組合派として日本独自の教派による伝道活動を本格化。
- 日本基督伝道会社による地域伝道のなかでも、今治、安中、岡山の教会はもっとも成長を遂げる ⇒ 図表 2-4

3. 伊勢（横井）時雄と新島襄

(1) 熊本バンドと伊勢時雄

- 1876年、1871年創設の熊本洋学校の生徒35名による「奉教趣意書」への署名によって、熊本バンド結成（花岡山事件）⇒ 図表 3-1
- 熊本洋学校で教鞭をとったジェーンズがデイヴィスに依頼し、熊本バンドのメンバーの同志社英学校への入学を依頼し、熊本バンドのメンバーが設立間もない同校へ入学。
- 熊本バンドのメンバーであった伊勢時雄は、今治教会の初代牧師に就任 ⇒ 図表 3-2

(2) 同志英学校（同志社）と新島襄

- 新島襄は、アメリカン・ボードの宣教師デイヴィスとともに、1875年に同志社英学校を設立。⇒ 図表 3-3
- ジェーンズから依頼を受けたデイヴィスの計らいによって、熊本バンドのメンバーが同志社英学校入学。

おわりに～地域産業の発展とキリスト教徒～

(1) 日本基督伝道会社（日本組合教会）による地域伝道の末

- 伊勢時雄→今治、海老名弾正→安中、金森通倫→岡山、浮田和民→大阪、小崎弘道→水沢
- アメリカン・ボードの宣教師（アトキンソン）、同志社英学校創設者の新島襄、横井小楠と甥たち、熊本洋学校教師ジェーンズ、熊本バンドのメンバー（伊勢時雄）が複雑に絡み合いながら、1879年今治教会の設立に結実。

(2) 地域を越えた交流

- 伝統的織物業を土台にして地域経済を支えてきた、今治と群馬は日本基督伝道会社（日本組合教会）をとおして交流をもった。
→伊勢時雄、海老名弾正、黒田嘉平（アトキンソンの四国伝道のきっかけをつくった人物）の次女ハルと四女サチ、曾我部四郎

キーワード

キリスト教、地域産業



「タオルびと」のロゴマークは、瀬戸内の穏やかな波とタオルのバイルをイメージしたものです。10のバイルは「十人十色」の意味です。

図表1-1 今治における綿織物の推移と綿織物業の発展に寄与したおもなキリスト教徒

小幅白木綿 (伊予木綿)	→	綿ネル・広幅木綿	→	タオル
柳瀬義富(1830-1914)				
		矢野七三郎(1855-1889)		
		阿部平助(1852-1938)		
			麓常三郎(1868-1929)	
			中村忠左衛門(1882-1945)	
			宮崎儀三郎(1867-1927)	

図表1-2 今治教会設立の経緯

年次	出来事	備考
1876	アメリカ会衆・組合派の宣教師アトキンソンが来今	アトキンソンは当時摂津第一基督公会の仮牧師で同公会員の鈴木清を同伴し4日間滞在。アトキンソンは1881年まで毎年来今し計13回に渡り伝道活動に従事。
1877	アトキンソン2度目の来今	二階堂円造と小崎弘道を随伴。
1878	愛隣社設立	アトキンソンの呼びかけにより綿織物業者を含む30名以上の有志で設立。
	赤峰瀬一郎来今	赤峰は熊本バンドのメンバーで同志社英学校在籍中に来今。
1879	摂津第二基督公会の仮牧師上代知新が来今し説教	同公会で受洗した今治出身の前神醇一と八木治作の依頼によるもの。
	会堂設立	活動の活発化により常設の会堂を創設。
	会堂の指導者として伊勢時雄来今	同志社英学校に学んだ今治出身の真鍋定造の紹介によるもの。
	今治教会が設立され伊勢時雄が初代牧師に就任	今治教会設立式にて新島襄が伊勢時雄に按手礼を施し、アトキンソンが6名に授洗。

図表1-3 明治期今治におけるキリスト教会員数および受洗者数(人)

牧師 (在任期間)	年次	会員	受洗者	合計
伊勢時雄 (1879年9月~1886年3月)	1879	13	11	24
	1880	42	29	69
	1881	77	39	116
	1882	102	28	130
	1883	199	95	294
	1884	393	198	591
	1885	347	78	425
牧師不在	1886	370	35	405
	1887	363	21	384
山中百 (1889年9月~1892年4月)	1888	354	33	387
	1889	350	21	371
	1890	359	17	376
	1891	364	24	388
牧師不在	1892	345	4	349
	1893	304	5	309
	1894	176	1	177
	1895	266	1	267
露無文治 (1896年1月~1926年8月)	1896	264	4	268
	1897	267	12	279
	1898	271	3	274
	1899	279	10	289
	1900	284	15	299
	1901	293	3	296
	1902	294	4	298
	1903	295	2	297
	1904	316	31	347
	1905	323	16	339
	1906	398	68	466
	1907	404	14	418
	1908	416	17	433
	1909	431	29	460
	1910	468	39	507
	1911	—	13	—
	1912	446	7	453

参考資料： 今治基督教会編「今治基督教会沿革小史」今治教会資料委員会編『今治教会史録』日本キリスト教団今治教会、2004年、72-75頁。

図表2-1 1859~1890年に来日したアメリカ・プロテスタント各教派

教派	日本の関連教会	
アメリカ会衆派 (アメリカン・ボード) <i>American Board of Commissioners for Foreign Missions</i>	日本基督公会→日本組合教会 (日本組合基督公会)	1869年D.C.グリーンが来日し改革派・長老派が東京・横浜を中心に活動していたため、神戸を拠点に活動。日本基督公会に一時属し1874年に摂津第一・第二公会、1875年に摂津第三公会を設立。その後多くの宣教師が派遣され1877年までに関西に地盤を固めた。1878年日本基督伝道会社、1886年日本組合教会を設立し独自の教会を組織。熊本バンドや同志社出身者が中心となり教会の日本化を促進。
アメリカ・オランダ改革派 <i>Reformed Dutch Church in America</i>	日本基督公会→日本基督一致教会→日本基督教会	1872年設立の日本初のプロテスタント教会。当初無教派主義に立ったが宣教師たちによって教派が発生。改革派と長老派の間で不和が生じ長老派は1874年以降長老教会を組織したが、1877年に長老派の呼びかけで改革派、長老派、スコットランド一致教会、アメリカ婦人一致外国伝道協会が協力して日本基督一致教会を組織。同年カンバーランド長老派、1885年アメリカ・ドイツ改革派、1887年アメリカ南長老派が参加し、スコットランド一致教会が脱会。日本基督一致教会は、一致神学校を設立して日本人伝道者の育成に尽力。1890年の第6回大会の際にW.インプリーが憲法改正委員長となり一致教会は日本基督教会に改組。ちなみに、改革派はその他に日本組合教会、日本メソジスト教会の3つの流れとなる。
アメリカ・ドイツ改革派 <i>Reformed Church in the US (German)</i>		
アメリカ長老派 <i>Presbyterian Church in the USA</i>		
カンバーランド長老派 <i>Cumberland Presbyterian Church</i>		
アメリカ南長老派 <i>Presbyterian Church in the US (Southern Presbyterian Church)</i>		
アメリカ婦人一致外国伝道協会 <i>Woman's Union Missionary Society of America</i>		
アメリカ監督派 (アメリカ聖公会) <i>Protestant Episcopal Church in the USA</i>	日本聖公会	1887年アメリカ監督派、イギリス聖公会宣教師協会 <i>Church Missionary Society</i> 、イギリス聖公会海外宣教師協会 <i>Society for the Propagation of the Gospel in Foreign Parts</i> が合同し日本人による教会の形成が望ましいと判断され設立。
ディサイプルス派 <i>Church of Christ (Disciples)</i>	基督教会	1883年G.T.スミス夫妻とC.E.ガルス夫妻が来日、秋田を拠点に伝道開始。1883年植村正久から受洗しその後アメリカ留学中にディサイプルス派となった石川角次郎が1892年に帰国して独立宣教師となる。1902年聖学院神学校設立。
アメリカ自由バプテスト派 <i>American Baptist Free Mission Society</i>	日本バプテスト同盟	1860年J.ゴープル布教開始。1873年来日のN.ブラウンが最初のバプテスト教会設立。1874年J.H.アーサーが2番目の東京第一バプテスト教会設立。1879年以降東北や関西、1889年以降九州で伝道。バプテスト各教派が合同し日本バプテスト教会となるのは1918年。戦後日本バプテスト同盟へ。
アメリカ(北部)バプテスト派 <i>American Baptist Missionary Union</i>		
アメリカ南部バプテスト派 <i>Foreign Mission Board of the Southern Baptist Convention</i>	日本バプテスト連盟	1845年アメリカで結成された教派で1889年にマッコラム夫妻とブランソン夫妻が来日。九州を中心に伝道。バプテスト各教派が合同して日本バプテスト教会となるのは1918年以降で、日本バプテスト連盟となるのは戦後。
アメリカ・メソジスト派 <i>Methodist Episcopal Church</i>	日本メソジスト教会	メソジスト派は3つの教派の流れをくみ1907年に合同し日本メソジスト教会組織。①1873年アメリカメソジスト教会からM.C.ハリスが来日し伝道開始。その後R.S.マクレイやH.コレルなどが来日し1875年に横浜メソジスト教会設立。ハリスは札幌バンドの学生たちに受洗。②カナダメソジスト教会からG.コ克蘭とD.マクドナルドが来日し伝道開始。静岡教会や沼津教会を設立。③南メソジスト教会は1886年神戸を中心に活動開始。教育活動に熱心で1888年に関西学院を開設。
アメリカ南メソジスト派 <i>Methodist Episcopal Church (South)</i>		
アメリカ・メソジスト・プロテスタント派 <i>Methodist Protestant Church</i>	日本美普教会	アメリカ・メソジスト派から1830年分離。1880年H.G.プリテンの来日により伝道開始。横浜英和学校や名古屋英和学校などを開設。1892年に日本美普教会を設立し東京、横浜、静岡、名古屋を中心に活動。
アメリカ福音派 <i>Evangelical Association of North America</i>	日本福音教会	ペンシルベニア州のドイツ人移民により福音教会成立。1876年F.クレッカーら3名が来日し伝道開始。クレッカーは1877年に京橋に和泉教会創設。
キリスト友会 (フレンド派) 婦人外国伝道協会 <i>Mission Board of the Religious Society of Friends of Philadelphia</i>	基督友会	17世紀イギリスで誕生した教派で日本への伝道はアメリカ・フィラデルフィアの婦人外国伝道協会によって開始。クエーカーとしても知られる。
アメリカ万国婦人矯風会 <i>Woman's Christian Temperance Union</i>	日本基督教婦人矯風会	1886年来日のM.C.レヴィットによって活動開始。東京婦人矯風会が設立されると全国に普及。禁酒運動や女性人権保護で活躍。
アメリカ・ユニテリアン協会 <i>American Unitarian Association</i>	ユニテリアン協会	イギリスに源流をもつが1825年にアメリカ・ユニテリアン協会が設立され、日本へはA.M.ナップによって伝道開始。
アメリカ・ユニヴァーサリスト <i>Universalist General Convention</i>	日本同仁基督教会	イギリスに起源をもちアメリカで発展した教派。1866年アメリカ・ユニヴァーサリスト結成。日本へは1890年にG.L.ペリンが来日し1906年に教会設立。
アメリカ・キリスト教青年会 <i>Young Men's Christian Association</i>	日本YMCA同盟	1844年イギリスで教派を超えた奉仕活動組織として誕生。1880年京橋教会の青年たちを中心に「東京基督教青年会」が結成され、アメリカからJ.T.スイフトが海外派遣主事に着任。

注： 同表は転載不可。近刊予定の「明治初期のアメリカ・プロテスタントの活動と日本組合教会」谷澤毅他編『地域と越境～「共生」の社会経済史』春風社にて、おもな来日宣教師名とともに記載。そのため、参考資料を割愛。

図表2-2 1874～1877年設立の会衆派9公会

設立年	教会名	設立時仮牧師	受洗者・会員	備考
1874	摂津第一基督公会（神戸教会）	グリーン	グリーンからの受洗者11名	受洗者の鈴木清は1876年アトキンソンに同行し今治伝道開始、のち慶応義塾に学び牧畜業を志し赤心社設立。前田泰一は慶応義塾で福沢諭吉からキリスト教を知り受洗、のち赤心社設立にも関与。
	摂津第二基督公会（梅本町公会・大阪教会）	ゴードン	ゴードンからの受洗者5名+日本基督公会からの転入者2名=7名	浪花公会と協力してのちに梅花女学校を設立。
1875	摂津第三基督公会（摂津三田教会）	ギュリック	ギュリックからの受洗者16名	ペリーの助言で三田に休養に出かけたデイヴィス一家が元三田藩主丸鬼隆義と出会い交流したのが端緒。
1876	西京第一基督公会（平安教会）	市原盛宏	新島からの受洗者8名+他からの転入者9名=17名	同志社英学校の生徒たちを中心として設立。西京第二・第三も同様。
	西京第二基督公会（同志社教会）	新島襄	新島からの受洗者16名+その他6名=22名	受洗者のなかには金森通倫、徳富猪一郎、新島みよ、山本咲、山本みね、新島八重がいる。
	西京第三基督公会（平安教会）	本間重慶	新島からの受洗者8名+他からの転入者12名=20名	本間は1879年に摂津第一基督公会にて受洗し同志社に学ぶ。同公会は1877年から地域伝道開始。
	摂津第四基督公会（兵庫教会）	村上俊吉	受洗者13名+神戸教会からの転入者3名=16名	村上は設立当初は牧師助手であったが、1877年にデイヴィスから按手礼を受けて正式に牧師に就任。
	摂津第一基督公会神戸講義所（多聞教会）	二階堂（横山）円造	18名	横山は教務主任として設立に協力し、翌年アトキンソンとともに中四国を中心に伝道活動に参加。
1877	浪花公会	沢山保羅	レヴィットからの受洗者4名+大阪教会からの転入者7名=11名	沢山は牧師として着任。また、会員には安中教会二代目牧師の杉田潮や今治出身の前神醇一がいる。

注： 同表は転載不可。近刊予定の「明治初期のアメリカ・プロテスタントの活動と日本組合教会」谷澤毅他編『地域と越境～「共生」の社会経済史』春風社にて記載。そのため、参考資料を割愛。

図表2-3 1878年夏の派遣先と伝道者

伝道先	伝道者	所属など
笠岡（岡山）	不破唯次郎	熊本バンド・同志社
安中（群馬）	市原盛宏	熊本バンド・同志社
和歌山	杉田（元良）勇次郎	同志社
今治（愛媛）	赤峰瀬一郎	熊本バンド・同志社
岡山	金森通倫	熊本バンド・同志社
高槻（大阪）	上原方立	熊本バンド・同志社
福知山（京都）・岸和田（大阪）	山崎為徳	熊本バンド・同志社
亀岡（京都）	堀金太郎（貞一）	同志社
彦根（滋賀）	小崎弘道	熊本バンド・同志社
淡路・姫路（兵庫）	山田良斎	明石教会
美濃（岐阜）	浮田和民	熊本バンド・同志社

注： 同表は転載不可。近刊予定の「明治初期のアメリカ・プロテスタントの活動と日本組合教会」谷澤毅他編『地域と越境～「共生」の社会経済史』春風社にて記載。そのため、参考資料を割愛。

図表2-4 日本基督伝道会社設立後（1878年）から日本組合教会設立以前（1886年）における会衆・組合派教会

設立年	教会	初代牧師・仮牧師	備考
1878	明石教会	アトキンソン	京阪神の9公会の教義により設立
	安中教会	海老名弾正	新島襄出身地ゆえの設立
1879	天満教会	沢山保羅	浪花公会から分離
	彦根教会	本間重慶	1874年グリーンと鈴木清の伝道にはじまり「明十社」を土台に設立
	今治教会	伊勢（横井）時雄	1876年アトキンソンと鈴木清の伝道にはじまり「愛隣社」を土台に設立
	新肴町（靈南坂）教会	小崎弘道	東京に集合した信徒団体「群羊社」を土台に設立
1880	岡山教会	金森通倫	1876年テラーの岡山訪問、1877年「ミッションステーション」設置をへて設立
	島之内教会	上原方位	摂津第二基督公会から分離
1882	高梁教会	松村介石など	1879年ベリー、金森通倫の訪問にはじまり1882年講義所設置をへて設立
	郡山教会	成瀬仁蔵	1880年成瀬仁蔵、1881年上代知新の伝道をへて設立
1884	笠岡教会	真鍋定造	1876年アトキンソン、小崎弘道、二階堂円造による伝道にはじまり厳しい迫害を退け設立
	丹波教会	堀金太郎（貞一）	1876年金森通倫、海老名弾正、堀金太郎の伝道にはじまり1881年講義所設置、1882年「新生会」結成をへて設立
	甘楽第一教会	辻密太郎	古着荷茂木一郎の功績が大きく1883年海老名弾正らの伝道をへて設立
	高崎（西群馬）教会	星野光多	無教派教会として設立されるが1888年に会衆派・組合派に加入。
	天城教会	亀山昇	1880年岡山教会員加藤寿による郷里天城への伝道にはじまり岡山教会から分離
1885	岸和田教会	戸川安宅	1878年新島襄の訪問にはじまり山崎為徳や下村孝太郎などの伝道をへて設立
	四條教会	竹原義久	中村栄助による功績が大きく徐々に信徒増加し設立
	福岡教会	不破唯次郎	1879年不破唯次郎の訪問、1880年講義所の設置をへて設立

注1 その他、1879年八日市教会、1884年西条教会、1885年小松教会、1885年松山教会、1885年熊本教会を設立。また、1886年4月の日本基督伝道会社設立直後に同年5月福井教会、6月落合教会、浦河公会、7月前橋教会、10月原市教会、新潟第一基督教会を設立。

注2 同表は転載不可。近刊予定の「明治初期のアメリカ・プロテスタントの活動と日本組合教会」谷澤毅他編『地域と越境～「共生」の社会経済史』春風社にて記載。そのため、参考資料を割愛。

図表3-2 伊勢時雄の略歴

1857	肥後国下益城郡沼山津（現在、熊本市秋津町沼山津）に横井小南とつせ子との間に長男として誕生
1871	熊本洋学校（第1期生）入学
1875	熊本洋学校を卒業し、開成学校に籍を置く
1876	熊本バンド結成
1877	同志社英学校（第1期生）へ転入
1878	今治を訪れ伝道活動に協力
1879	同志社英学校卒業し、21歳で今治教会初代牧師となる
1886	今治教会牧師を辞任し、東京市本郷教会の牧師となる（～1894年）
	妻の峰子（山本覚馬の長女）死去
1887	柳瀬義富の五女豊と再婚
1889	父方の従兄である伊勢左平太が父小南の嗣子となっていたが、左平太の死後時雄が養嗣となり伊勢姓を名乗っていたところ、この年に横井に復姓
1894	アメリカのエール大学入学
1897	同志社第3代社長兼校長に就任
1898	「要綱削除問題」で社長兼校長を辞任
1901	逓信省官房長に就任（約2ヶ月）
1903	政友会議員（岡山）として1回目の当選
1908	政友会議員（岡山）として2回目の当選
1909	日本精糖汚職事件により重禁固5か月の刑に服す
1916	ロンドンに駐在（～1919年）
1919	パリ講和会議に随行し、この功績により勲三等旭日中綬章
1927	8年間の療養生活の末、別府の別荘にて永眠

参考資料： 飯峯明「今治教会創成期の人々」今治教会資料委員会編『今治教会史録』日本キリスト教団今治教会、2004年、153、163-165頁。

図表3-3 新島襄の略歴

1843	安中藩江戸詰め下級武士の長男として誕生
1864	21歳の時に箱館から快風丸に乗船し密航を計画
1865	箱館～上海～アメリカ(ボストン)へ到着
	船上で船長のテイラーと出会い、ボストン到着後テイラーは船主のハーディーを新島に紹介 ハーディーの養子となる
1867	フィリップス・アカデミー高校にて受洗
	アメリカン・ボードと一体のアンドーヴァー神学校で学ぶ（～1870年）
1871	ボストンで森有礼と出会う
	アメリカン・ボードの年会でデイヴィスと出会う
1872	岩倉使節団の通訳として活躍、全権副使の木戸孝允と知遇を得る
	岩倉使節団の文部理事官田中不二麿とイギリス、フランス、スイス、ドイツ、ロシア、オランダ、デンマークなどヨーロッパ視察
1874	アメリカン・ボードから準宣教師に任命
	ラットランド演説で5000ドルの献金を得る 横浜に帰着し安中に帰省（3週間の滞在）
1875	同志社英学校設立
1876	山本覚馬の妹八重と結婚
	同志社英学校に熊本バンドのメンバー入学
1878	安中教会にて30名に授洗
1889	前橋で倒れ大磯で療養生活に入る
1890	死去（享年46歳）

図表3-1 熊本バンドの人たち

「奉教趣意書」の署名者			
氏名	人物	氏名	人物
宮川経輝	ジェーンズより受洗。同志社英学校へ入学し卒業後同志社女学校で教師。のち摂津第二基督公会牧師。組合教会3元老の一人。	北野要一郎	のち盟約破棄。長崎英学校で教師。
古荘三郎	ジェーンズより受洗。「奉教趣意書」の起草者。伝道者として活躍したのち実業家。	加藤勇次郎	ジェーンズより受洗。同志社英学校へ入学し卒業後同志社女学校で教えたのち理学博士。
岡田松生	ジェーンズより受洗したが盟約破棄。同志社英学校へ入学し卒業後津田仙創設の学農社で教師、のち牧師。	紫藤 章	のち盟約破棄。農学博士。熊本電気会社社長、熊本商業会議所会頭、市立横浜生糸試験所所長を歴任。
林 治定	ジェーンズより受洗。矢嶋楯子の長男。霊南坂教会創設者の一人、のち船長。	松尾敬吾	のち盟約破棄。同志社英学校へ入学し卒業後岡山などの地域伝道に活躍し、のち熊本県立八代高等女学校校長。
不破唯次郎	ジェーンズより受洗。同志社英語学校へ入学し卒業後地域伝道に従事したのち牧師。	下村孝太郎	ジェーンズより受洗。同志社英学校へ入学し卒業後熊本で英語教育に従事、のち工学博士。同志社第6代社長。
由布武三郎	ジェーンズより受洗。開成学校入学卒業後、東京商大（一橋大学）校長、文部省参事官、弁護士。	上原方立	ジェーンズより受洗。同志社英学校へ入学し卒業後島之内教会牧師となるが、腸チフスにかかり24歳で早世。
蔵原惟郭	ジェーンズより受洗。同志社英学校へ入学しアメリカ留学。卒業後、熊本英学校校長、早稲田大学教授、立憲同志会の衆議院議員を歴任。	徳富猪次郎（蘇峰）	同志社英学校へ入学したが中退、熊本で大江義塾を開設し『将来之日本』を出版、上京して民友社設立後『国民之友』『国民新聞』を創刊。
金森通倫	同志社英学校へ入学し卒業後岡山に地域伝道したのち牧師。『日本現今之基督教並二将来之基督教』において新神学を主張。	森田久萬人	ジェーンズより受洗。同志社英語学校へ入学しイエール大学留学後、同志社教授。
辻（家永） 豊吉	ジェーンズより受洗。同志社英学校へ入学し卒業後東京商大教授、コロンビア大学、シカゴ大学で講師を歴任。	伊勢（横井）時雄	横井小楠の長男。開成学校から同志社英学校へ転入し新島襄のもとで最初の牧師となる。卒業後今治に伝道し今治教会初代牧師。同志社第3代社長。
亀山 昇	同志社英学校へ入学し卒業後地域伝道に活躍。沢山保羅のあとを継ぎ浪花教会牧師。	浮田和民	ジェーンズより受洗。同志社英学校へ入学し卒業後イエール大学に留学、のち同志社政治学校校長、早稲田大学教授など歴任。大正デモクラシーを牽引。
海老名喜三郎（弾正）	ジェーンズより受洗。同志社英学校へ入学し卒業後安中、前橋、東京本郷、熊本の各教会を設立。同志社第8代社長。組合教会3元老の一人。雑誌「新人」「新女界」などを発行。	阪井禎甫	「奉教趣意書」の起草者。のち盟約破棄。
浦本武雄	のち盟約破棄。医者として活躍。	市原盛宏	ジェーンズより受洗。同志社英学校へ入学し卒業後同志社で教師をしながら地域伝道にも尽力。日本銀行、渋沢米一の第一銀行、横浜市長、朝鮮銀行総裁などで活躍。
同志社英学校で合流し熊本バンドと呼ばれた人たち			
氏名	人物	氏名	人物
小崎弘道	ジェーンズより受洗。同志社英学校へ入学。新島襄のあとを受けて同志社第2代社長。自らが設立した霊南坂教会牧師に帰任。組合教会3元老の一人。「六合雑誌」発刊。	岡田源太郎	ジェーンズより受洗し同志社へ入学するが中退。のちジェーンズも赴任したことがある鹿児島造士館で教師。
山崎為徳	水沢出身。熊本洋学校に入学し卒業後は開成学校に籍を置くが同志社英学校へ転入。卒業後同志社英学校などで教師。結核のため24歳で早世。	和田正修	ジェーンズより受洗。開成学校に入学するが同志社英学校へ転入。卒業後は東京で勉学を継続。
吉田作弥	同志社英学校へ入学し卒業後神戸女学院で教鞭をとり、のち外務省入省。	赤峰瀬一郎	ジェーンズより受洗。同志社英学校在学中に今治へ伝道。
原田助	広取英和学校から同志社英学校へ転入。卒業後同志社教授、同志社第7代社長、ハワイ大学教授を歴任。		

注1： 「奉教趣意書」署名者は、金子富吉（同志社英学校入学・卒業）、大嶋徳四郎、古開義明、吉田萬熊（のち盟約破棄）、原井淳太（のち盟約破棄）、大屋武雄、両角政之（のち盟約破棄）、野田武雄（のち盟約破棄）、川上虎男（のち盟約破棄）、鈴木篤（のち盟約破棄）、今村慎始（のち盟約破棄、官吏）を含む36名。また、各署名者の人物説明は資料の制約上すべてに及んでいないため署名順不同。署名順など趣意書の成立や背景についての詳細は以下の文献を参照。杉井六郎「『奉教趣意書』成立に関する若干の考察」『キリスト教社会問題研究』16～17号、同志社大学人文科学研究所、1970年、38～86頁。

注2： 同表は転載不可。近刊予定の「明治初期のアメリカ・プロテスタントの活動と日本組合教会」谷澤毅他編『地域と越境～「共生」の社会経済史』春風社にて記載。そのため、参考資料を割愛。